

2021年度 第1回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画策定及び推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2021年7月29日（木） 13:30～15:30	
開催場所	オンライン（町田市役所 5-4会議室）	
議題	1 開 会 2 委員自己紹介 3 委員長挨拶 4 報 告 （1）町田市食育リーフレット、まちだ食育カレンダーの作成について （2）国・都の食育推進計画改定について （3）レシピコンテストの実施について 5 議 事 （1）食育推進の実施状況について （2）町田市食育推進キャラクターの作成について 6 事務連絡 7 閉 会	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	饗場 直美 （学識経験者） 五十子 桂祐 （町田市医師会） 千葉 勢子 （町田市法人立保育園協会） 湯目 英人 （町田市私立幼稚園協会） 貝原 俊明 （町田市公立小学校校長会） 植波 千晶 （市内小学校栄養教諭） 富田 一女 （市内高等学校教諭） 小口 悦子 （市内大学教員） 井上 孝男 （市内農業者） 吉永 みずほ （町田集団給食研究会） 村上 律子 （町田地域活動栄養士会） 坂本 愛 （町田市観光コンベンション協会） 堤 康恵 （町田市公立小学校 PTA 連絡協議会） 小川 聖子 （町田市立中学校 PTA 連合会）
	事務局	保健予防課

欠席者	委員	亀山 光春	(東京都町田市歯科医師会)
		矢島 加都美	(町田市公立中学校校長会)
		新倉 敏和	(町田市農業協同組合)
		松井 大輔	(町田商工会議所)
		福田 猛夫	(東京都町田食品衛生協会)

配付資料	資料1 報告資料 資料2 朝食レシピコンテスト チラシ 資料3 2020年度町田市食育推進計画進捗管理シート 資料4 町田市食育推進キャラクターの作成について 町田市食育推進計画策定及び推進委員会委員名簿
------	--

検 討 経 過

1 開 会

2 委員自己紹介

3 委員長挨拶

4 報 告

(1) 町田市食育リーフレット、まちだ食育カレンダーの作成について【資料1】

事務局：町田市食育リーフレットは最近の食育情報を市民に届けることを目的に作成しており、16号まで発行している。委員の皆様が行っている食育情報の掲載、食育リーフレット配布が可能。ぜひ活用をお願いしたい。食育カレンダーは、行事食や町田市の食に関する日、イベントをまとめて掲載したものである。町田市役所各課、委員等がそれぞれ行っていた食育活動を共有して、食育を推進することを目的に作成している。食育現場での掲載や献立作成等に活用していただきたい。どちらも町田市ホームページに掲載している。

(2) 国・都の食育推進計画改定について【資料1】

事務局：国の第4次食育推進基本計画と東京都食育推進計画は2021年3月に改定があり、計画期間は令和3年度から令和7年度となっている。主な改定のポイントは持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献すること、オンライン等のデジタル化を図ることである。町田市においても、会議・講演会のオンライン開催やYouTube活用を進めている。

(3) レシピコンテストの実施について【資料2】

事務局：レシピコンテストは学校教育部指導課の事業となる。2020年度から実施し、中学生を対象とした。2021年度は小学6年生の希望者、中学生全員を対象としている。テーマは「30分以内に作れる元気が出る朝ごはんのレシピ」とし、夏休みの課題で実施予定である。

る。2020 年度町田市中学校朝食レシピコンテスト最優秀賞は「元気の出る栄養満点の和食ごはん」。いわしごはん、なすの煮びたし、みそ汁の 3 品を紹介した。受賞レシピはまちだ子育てサイトとクックパッドで公開しており、動画も公開している。ぜひご覧いただきたい。

委員長：食育カレンダーの情報量をさらに充実させたい。各委員の活動内容についても、集約してカレンダーに掲載したい。集約の仕方については、今後検討を進めたい。レシピコンテストについて、対象が拡がり、良いことである。委員の意見も伺いたい。

委員：6 年生の担任教師を中心に夏休みの課題として配布している。自由課題なのでどれだけ提出があるか読めないところはある。コンテストの実施について年度末までに情報があれば、家庭科などの授業とタイアップできたと思われる。本校では 6 年生の 1 学期に家庭科で朝食レシピの調理実習を行っている。今年度は感染症の影響で調理実習が行えていないが、レシピコンテストとは別に課題を配布した。

委員長：小学校のカリキュラムにレシピコンテストを組みこめるよう事務局で調整願いたい。また、レシピコンテストの対象が小中学生となっているが、高校生・大学生は朝食欠食が増えてくる年代である。そこも対象に含められると良い。

委員：レシピコンテストに応募すること含め、何らかの形で関わることは可能である。

委員長：その他に委員からの報告や事務局の報告に対する意見等はあるか。食育カレンダーについて、幼稚園、保育園での活用方法はあるか。

委員：園の食育計画とマッチングしていくと良いと思う。マッチング方法はこれからの検討課題である。町田市の食のイベントをもっと載せ、保護者へアピールすることで、保護者・園児のイベント参加につながり、食に対する興味関心が沸くのではないか。その中に園のイベントなども織り交ぜると、食育カレンダー一つで町田市の食育がわかる。その情報を含め、食育を進められるとより拡がっていくのでは思う。

委員：本園は自園給食なので、行事食等の情報を給食に取り入れることができる。その他にも事例があれば、教えていただきたい。

委員長：町田市の食育が一目で共有できると、さらに一体となって食育を推進できる。委員からの情報が集まり、随時事務局がアップデートするシステムができると町田市の食育のデジタル化が進んでいく。国や都の食育計画でもオンライン等のデジタル化を図ること、SDGs の達成への貢献が記載され、コロナ禍の今はデジタル化を進めていく良い機会である。

5 議 事

(1) 食育推進の実施状況について

委員長：2020年度町田市食育推進計画進捗管理シートについて事務局から報告を願いたい。

事務局：町田市食育推進計画進捗管理シートは、第2次町田市食育推進計画に基づく取組を評価するために作成しているが、その中の4つの取組を抜粋し報告する。1つ目、食育ツアーリズムについて。食に関わる人や自然に感謝の心を育むことを目的とし、実施している。2020年11月に農園で野菜を収穫し、その野菜を使用してピザ作りを行った。今年度も10月3日に小野路方面で収穫体験、スポーツ体験を織り交ぜたプログラムで実施予定。2つ目、食育講演会について。2020年11月の町田市総合健康づくり月間に合わせて実施。YouTubeに著名人による町田産野菜を使用したレシピ動画を掲載し、オンライン形式で食育を行った。2021年度も同形式で実施する予定。3つ目、町田市食育ボランティアについて。2020年度は感染症の影響でなかなか活動できなかった。2021年度は活動を再開し、7月に「くらしフェア」に出展し、災害時の調理法“パッキング”の普及を行った。4つ目、小学校での町田産農産物を使用するまち☆ベジ給食について。2020年度は12月に実施し、町田産の米とまち☆ベジ味噌汁を、2021年度は、7月に夏野菜カレーを全小学校で提供した。2020年度は感染症の影響で中止した取組が多かった。2021年度は人数制限、消毒等の感染症対策、プログラムの変更、オンラインの活用により実施を進めている。また、2020年度からSNSを開設し、食育の普及を図っている。

委員長：本議事ではコロナ禍でも創意工夫し実施できた食育や、実施できなかった食育について共有し、これからの食育推進の一助にしたいと考えている。2020年度、2021年度の食育実施状況について各委員からの意見をお願いしたい。

委員：2020年度の始めは園児が登園できない状況だったが、トウモロコシの皮むきや野菜調理、梅干し作り等を行えた。体験後は加熱調理を伴うもののみ、園児に食べてもらった。食育活動は計画“5つの視点”に着目し、園で食育計画を立てた。保育園の食育活動では、1つの活動で複数の視点にまたがるものが多い。2021年度においても2020年度同様に活動できている。コロナ禍においても、できることを変わらず行い、子どもに経験を積ませたい。

委員：2020年度はコロナ禍で学校給食が中止となり、小学生に町田市の農産物をなかなか提供できなかったが、現在は提供できている。提供する際は、できるだけ東京都のエコ農産物の基準に沿ったものを提供していきたい。2020年度農業体験会を開催した。収穫物は家庭に持ち帰ってもらい、家庭で食す形で食育活動を行った。野菜は毎年気候の変化によって、できが異なる事を伝えている。これからも学校給食への提供やゲストティーチャーとしての食育活動を行っていきたい。認定農業者、野菜部会は蚕や稲の栽培に関するゲストティーチャーとして、小学校へ出向いた。畑で栄養士を招いた講習会等も行っている。野菜部会の取組についてまとめ、その情報を食育カレンダー等に掲載できると、情報が共有され、さらに広がっていくと思うので拡げていきたい。

委員長：町田市は都会だが自然も沢山あり、日本の良い風景が残っている。この地の良さを活かした体験を上げられると良いと思う。

委員：野菜の収穫体験は収穫量を見込んで、計画する必要がある。農業関係者と連絡を取りながら、計画を進めたい。JAでは地産地消サポーターを対象とした体験教室を開催されているようなので、そういったところと連携しながら市内全体に広げたい。コロナ禍で実施できないことが多くあるが、まち☆ベジを使ったカレー屋やブルーベリー園をフォロワーが7000人いるツイッターで紹介している。2021年6月にはまちだ名産品を販売する菓子店と連携し、和菓子作り体験を行った。まちだ名産品や和菓子という日本の食文化を伝えていくためにこれからも行っていきたい。まちだの食のわ（保健予防課SNSアカウント）ともつながっているので活用したい。

委員：幼稚園では栄養士が年間の食育計画を立てている。最近はニジマスのつかみ取りを行ない、園児が獲った魚を調理員がその場で炭火焼にし、昼食にした。切り身でない、丸ごと一匹の魚提供が園児の食への興味や食欲を引き出したと思う。その他、園内で作っているブラックベリーを園児が収穫し、調理員がジャムにして給食で提供した。

委員長：他の幼稚園でも地域と連携した食育活動は行われているのか。

委員：地域の農家と協力し、芋ほり体験等が行われていると思う。各園で行っている取組をまとめて、情報提供することは可能であると思う。

委員：小学校では農家に協力依頼し、講話や体験を行っている。本校は緑豊かな特徴をいかして農家と密に連携し、地産地消に取り組んでいる。給食で契約している農家の畑にて、野菜の種まき、収穫まで行っている。また、学校花壇にて野菜の栽培を行っているが、その収穫にも地域の方に協力していただいている。2020年度はコロナ禍でできないことが多かったが、2021年度は屋外活動を実施できている。児童が栽培したものを給食で提供することもある。

委員：本高校は普通科より食に関する授業が多い。生徒の興味が高いのは調理実習だが、コロナ禍で調理実習の多くが中止。調理実習をしても、共食できない状況にある。市内小中学校で行われるレシピコンテストについては、カリキュラムに組み込むことができれば実施できると思う。1年生は時間が限られるため困難だが、2、3年生の選択科目に組み込めるかもしれない。最近ではフードロス、日本料理等、生徒がテーマを決め自宅学習に取り組んでいる。

委員長：フードロスはSDGsの大きな目標であり、第4次食育推進基本計画にも明記され、関心が高まっている。レシピコンテストは市内の小中学校から高校までが一体となって取り組めると良い。さらに大学生も参加できるとより良いため、実現に向けて協力を願いたい。

委員：大学では以前は食体験に関する授業を行っていたが、2020年度、2021年度は中止。授業もリモート学習が主になっている。入校禁止や授業時間への制約等があり、カリキュラム以外の取組が難しい状況だが、ゼミの卒業研究などで取り組むことが可能か検討したい。

委員：小学校での食体験は5年生でのバケツの田植え、2年生でのミニトマトの栽培、その他校庭で野菜の栽培・収穫をし、家へ持ち帰っている。調理体験としては1年生でそら豆、3年生でトウモロコシの皮むきをし、給食で提供されている。自分が関わったものを食べることで食に興味をもち、食欲増進につながっている様子。調理前の状態を見せるのは、とても大切なことだと思う。

委員：中学校ではコロナ禍で調理実習ができていない。学校全体の食体験の場は設けられていないが、PTAと部活動「自然観察部」が連携し、野菜の栽培、食事等の活動をできないか検討している。旬の野菜を使った料理教室等のイベントについても開催したいと思っている。また、学校から朝食の献立を考える課題（レシピコンテスト）が出されている。

委員：集団給食研究会はコロナ禍で活動がほとんどできなかった。病院栄養士として感じたことは、高齢者は免疫力という言葉に敏感に反応していた。居宅で動けない高齢者は体力・筋力が落ちてしまい入院という方も多くいる。若い世代においては、コロナ鬱から過食、拒食になる方が増えた。食育は明るいイメージがあるが、様々な世代の課題に対して普及啓発できれば良いと感じる。

委員：栄養士会もコロナ禍で活動が難しい状況だったが、7月に行われたくらしフェアに出展した。免疫力アップとフレイル予防の普及活動を行い、約100名の来場があった。栄養相談ブースの設置はできなかったが、必要があれば3分以内の相談する事とし、30名の相談を行った。日本栄養士会から提供された冊子「栄養ワンダーブック」を約100部配布したが、こちらに関心が高かった。保健所が発行する「みんなの健康だより」に朝食レシピを掲載し、時間が無い中でも食べていただくよう啓発を行った。

委員：観光分野では2020年度11月に食育ツーリズム、12月に名産品のPRを兼ねてスイーツフェスタを開催した。2021年度は飲食店応援キャンペーン、多摩観光推進協議会主催のライドアROUND in 東京多摩への参加を予定している。また、JAなどとも連携し、町田市産の農産物を収穫もしくは購入し、調理体験するイベントなどをオンラインでも開催できると思うので、検討していきたい。大学生が上京してきたが、登校できず、仲間もできないというニュースを目にし、食事の面も心配。事業の様子をSNSにアップし、そのような世代にアピールしたいと思う。

委員：最近では発熱している患者の診療が多く占めている。医療機関は高齢者が多い。フレイルの対策として栄養が大切だということが発信できれば良いと思う。また、糖尿病患者の診療の際には、運動・食事療法が優先で、その後薬物療法を行うものだと伝えたい。栄養が大切ということを理解してもらうには、小さい時からの食育が大切になってくる。

委員長：委員の意見からコロナ禍でできる事、できない事を選別し、これからの食育推進を図りたい。事務局の方で意見の集約をお願いしたい。

(2) 町田市食育推進キャラクターの作成について

委員長：2020年度委員会で新しいキャラクターの作成について議論した。事務局より進捗状況の報告をお願いしたい。

事務局：動画等を活用した食育推進のため、新しいキャラクターの作成を進めている。現在、神奈川工科大学の学生に協力してもらい、案【資料4】ができた。町田市で多く穫れる農作物（米・きゅうり・トマト・茄子・卵・牛）をテーマに6体作成した。2022年4月からの使用を目指している。

委員長：学生にコンペ形式でキャラクターを作成してもらった。案の作成にあたって、コンピュータグラフィックの専門家や事務局と確認した。子どもが集まる保育園や学校を始め、様々な場所で使用できると思う。活用方法等、意見を伺いたい。

委員：小学校では現在も食育キャラクターを使用している。動画となれば給食時間などに流すことができるので、さらに活用の幅が広がる。

委員：動画を流すのはもちろん、着ぐるみがあると子ども達の目を引くのでは。カレンダーなどにも載せても良いと思う。

委員：幼稚園にはぴったりのキャラクターである。毎月発行している献立等にも載せたい。

委員長：他にも使用方法等の意見があれば、事務局にお伝え願いたい。また、2022年度からの使用に向けて、案をベースに作成を進めてよいか。

委員長：異論がないので、2022年度以降に使用できるよう作成を進める。

6 事務連絡

事務局：①謝礼の支払いについて②次回は2月頃を予定している。

7 閉会

以上